

側弯症検診における着衣状況の問題点と対策

よし なお まさ とし
吉 直 正 俊

キーワード：側弯症，学校検診，着衣状況，陽性率，羞恥心

要 旨

昨年度，出雲市の側弯症一次検診結果を調べ，少なくとも女子の「体操服」での検診では見逃しが生じやすいことを本誌に掲載した。

しかし，着衣状況は各学校・各学校医に委ねられているため，“何を優先して検診を行うか”により，対応は異なっている。

今回，出雲市以外一県内他地域および山口県での着衣状況を調べた。県内他地域では『生徒の羞恥心』への配慮として，小学校低学年から「体操服」での検診が主流であった。そのため，県内では学校関係者ならびに保護者から，「脱衣」での検診には戸惑いとクレームが起こりやすくなっていた。一方，山口県では小学校低学年から「脱衣」が主流であり，検診の目的が周知されているようであった。

更に，平成30年度の検診結果から着衣変更された31年度の状況の分析を行い，30年度と同様な結論を得た。その上で，生徒の最も身近な立場の養護教諭に「脱衣」への意向調査を行い，「脱衣」での検診の問題点と対策を検討した。

はじめに

側弯症検診の実施方法は国からの経費援助なしに各自治体の教育委員会に一任され，教育委員会は各学校・学校医にその実践を委ねてきた。児童生徒等の健康診断マニュアル¹⁾には，イラストで「上半身脱衣」の前屈・視診法が示されているが，文言として「上半身脱衣」での検診を義務付ける

ものとはなっていない。そのためか，側弯症検診の着衣状況は学校ごと・学校医ごとにバラバラに対応されている。

出雲市では側弯症検診に適切な着衣状況を調査中であり，平成31年度，県内比較のために他地域（7市2町）での着衣状況を各医師会経由で学校医にアンケート調査を行った。

結果（図1）は男女ともに小学校低学年から6割以上が「体操服」であり，中学生女子に関しては，圧倒的に「体操服」での検診であった。そして，「体操服」を選択した理由として，一律に

Masatoshi YOSHINAO

医療法人吉翔会 吉直整形外科クリニック

連絡先：〒691-0002 出雲市西平田町242

医療法人吉翔会 吉直整形外科クリニック